

医療を国民により理解いただくために



自見はなこ氏

参議院議員 自見 はなこ氏

くの部分には年金であって、医療費は増加傾向にあるものの、その一部に過ぎません。国民の間には誤解が根強く、「社会保障費＝医療費＝高額医療費＝医者が儲かっている」というような古い構図がまだまだ大手を振って闊歩しています。こうした状況はそろそろ終わりにするべきです。

さらに医療・介護は、セーフティネットであると同時にある種の産業でもあり、雇用を支え、納税にもつながっていくのです。地域の中に医療機関や介護施設があつて安心の社会をいろいろな側面から機能として支えている、その意義を、広く一般社会にもつと理解していただけるよう私も今後力を注いでいきたいと思います。

さて、社会保障費は近年、国の財政事情等もあつて抑制傾向が否めません。確かに国家として国をどう安定させるかという観点からこの問題を考えなければなりません。

一方で「国家の安定」の大事な要素としての社会保障を捉える必要もあります。社会保障があるからこそ地域社会が、一人ひとりの生活が成り立っているのです。そもそも社会保障費の多

またこれからは医療人の多職種連携が大切になりますが、多くの方に医療人の扉を開いてほしいと考えています。この考えを持つきっかけになったのは、私が小児科医として医療に従事していた頃にさかのぼります。非正規雇用でお子さんが風邪をひくたびに

「退職に怯えながら」仕事をしているシングルマザーと何人も会ってきました。このお母さんたちが、医療人の仲間になってくれたらどんなにいいか、と考えたこともあります。限られたパイ」といわれてはいるものの、准看護師含めて大勢の方の適材適所の働く場所を地域の中で知恵を出し合い政策という形にして創出していく、医療の知識をベースにもったケアマネジャーとなつて介護の世界と医療の世界を結び役割も考えられますし、これからの保育のニーズや高齢化が進むなか、むしろ出番は増えるだろうと考えています。

私はこの1年半、日本医師連盟の候補として日本を4、5周し、地域の実情をうかがうことができました。さまざまな規模の病院がそれぞれの役割を務め、地域医療を守ってくださいたいことを目の当たりにしてきました。経営的な視点は研ぎ澄まされていらっしやるし、努力もされ、そのうえで十分に公的な役割も果たされているのです。さらに雇用機会を用意してくれる貴重な存在でもあるのです。その知恵を、ぜひとも教えていただきたい、お願いいたします。